

令和2年度 島根県立矢上高等学校 学校評価

分掌による自己評価 4: 良い 3: だいたい良い 2: 少し改善すべきだ 1: 改善すべきだ 0: わからない 目標値・評価欄 A 3.0以上 B 2.9~2.5 C 2.5未満						学校関係者評価委員会評価	
部署	目 標	校内評価	成 果 と 課 題	来 年 度 の 取 組 み	(ABC)	記述意見	
総1	1. 各分掌、学年会、各種委員会、矢上高校魅力化センター等との連絡調整に努め、学校行事の円滑な運営と学校の活性化を図る。	A	【成】3月ごとの学校行事表を作成し、先を見ながら、運営委員会や職員会議を通じて調整を図ることができた。 【課】PTA活動などにおける自主的な取り組み	○来年度においても、例年とは異なる対応が求められると考える。その都度、こまめな意見交換を心がける。	A	・学校行事・生徒の活躍を地域住民にもっとPRしてもよいと思う。	
総2	2. 学校からの活発な情報発信を行い、家庭や地域の認知度を高める。	A	【成】ホームページや緊急メールにより、学校の様子や必要な連絡情報をタイムリーに情報発信することができた。 【課】タイムリーな情報発信の継続性	○広報活動のチーム化を検討する。(分掌を横断した広報活動チームを編成し、協力しながら広報活動を行う。)	A		
総3	3. 図書館の利用環境を整え、読書活動の推進を図る。	A	【成】年度初めの新聞の購入や生徒へのこまめな呼びかけ、授業での活用等により、生徒の貸出数が増加した。 【課】読書する生徒・しない生徒の二極化 授業での更なる活用拡大の工夫	○朝の時間の活用や移動図書館などの実施を検討する。 ○読書への関心を高める更なる働きかけ (教職員の図書館利用例の紹介など)	A		
教1	1. 生徒が主体的に取り組める授業の実践。	A	公開授業等を通して教職員に周知することができたが、まだまだ十分とは言えない。	今後もこの取り組みを続けていく。 各教科会においても意見交換等を実施しながら実践していく。	A	・部活動にもよるがとてよく挨拶をしてくれる。 ・生徒の自主性をあげる議論が必要なのはないか。指示されたことは真摯に取り組むが自分たちで考えることは苦手に思わ	
教2	2. 現教育課程の円滑な実施と新教育課程の作成。	A	新教育課程の編成について主幹教諭とともに委員会を立ち上げて取り組むことができた。産業技術科のコースや起業探究の担当者について課題が残っている。	次年度5月までに新教育課程は決定する。	A		
教3	3. 業務の標準化および他分掌等との協力体制の確立。	A	試験監督については昨年度より標準化できたが、まだ偏った部分がある。	次年度も本年度と同様の取り組みを今年度以上に標準化する。	A		
生1	1. ルール・マナーを守った基本的習慣を確立する。	A	・ルール・マナー違反が減少した。 ・今後もSNS等の使用方法については継続的に指導が必要である。	情報モラル講座を実施し、ルール、マナーを守るような継続的な指導をする。	A	・普通科だけでなく産業技術科があつて職業の選択が広がっていることがよい。	
生2	2. 自他を尊重し、他者と協働して明るく元気な学校づくりをする。	A	・思いやりのある行動に多数触れることができた。 ・部活動、生徒会行事等における良い上下関係の構築が必要である。	年度初めの各部活動への指導。人権教育との連携をしてよりよい人間関係を構築する。	A		
生3	3. 目標に向かって主体的かつ誠実に行動する。	A	・コロナ禍による生徒会行事、部活動等の活動内容を生徒会が主体となって企画・運営した。 ・学習面と他の活動との両立を図る。	コロナ感染予防ガイドラインの中で、さらなる工夫をし、多くの生徒が意欲をもって活動できる活動内容を構築する。	A		
進1	1. 三年間を見通した計画的な指導を行い、進路目標を主体的に設定させる。	A	進路指導部内の各学年の担当教員と協議しながら、進路行事を実施した。各学年の進路検討会の状況からも、担任、学年会で各学年に応じた進路指導ができたと考えている。	進路目標の決定、コース選択など生徒がより早めに決定できるように学年会との連絡をより密にしていきたい。	A	・普通科だけでなく産業技術科があつて職業の選択が広がっていることがよい。	
進2	2. 一人ひとりの希望に即したきめの細かい指導を行い、進路目標を実現させる。	A	今年度も生徒一人一人に担当をつけて小論文・面接の指導を行うことができた。	今年度は小論文、面接等で求められる力が高くなっている印象を受けた。学年やクラス全体の指導である程度完成させ、先生方の負担が軽減できるよう努めていきたい。	A		
進3	3. 生徒が学ぶことと将来のつながりを見通しながら社会的・職業的自律ができるよう支援する。	A	進路ガイダンス、上級学校訪問、職場見学など将来の進路について考える場を設定し、進路選択やコース選択に役立ったと考えている。	HR、探究の時間を活用し、普段から学ぶことと将来のつながりについて考える習慣がつけられるよう取り組みたい。	A		
保1	1. 生徒の心身の健康状態を把握し、かつ適切迅速な対応をする。また、より快適で安全な教育環境の実現に努める。	A	身体測定や各検診をとおして、生徒一人一人が自分の身体や健康状態に関心を持ち、健康的に過ごしていけるよう手助けし、取り組んできた。また保健室に相談に来る生徒たちの悩みや心配事を聞き、常に丁寧に対応し適切なアドバイスをするように心がけた。	可能な限り生徒一人一人の体調や健康状態に配慮する。	A	・寮をいっそう充実させていって欲しい。	
保2	2. 学校環境の美化に努める。	A	安全点検を実施し、事務部の協力により掃除用具の整備や修理をすることができた。また掃除時間は先生方のご協力により、生徒たちがきちんと掃除に取り組み、学校環境の美化に努めることができた。	さらに学校の美化に努める。	A		
保3	3. 相談活動の充実を努める。	A	スクールカウンセラーやホストスペースの先生方と生徒や保護者、教職員が相談活動を行えるように計画的に実施することができた。限られた時間ではあるが、相談者は有意義な時間を持っている。	今後も誰もが相談できる場を設け、それぞれの悩みの解決につなげていく。	A		
舎1	1. 生活の規律化による学習の充実。	A	舎監の日々の指導と生徒たちの学習へ取り組む姿勢や他者のことを考えて行動する意識が高くなってきたこと、規律ある生活をする事ができ、学習をする環境も整ってきた。	継続的に取り組んでいき、学習環境を整えていきたい	A	・寮をいっそう充実させていって欲しい。	
舎2	2. 寄宿舎生の健康の保持を図る。	A	寄宿舎内でのマスク着用や手洗いやうがい、手指消毒といったコロナウイルス感染症の対策をしっかりとすることができ、感染者を出さず健康を保持できた。コロナウイルス感染症の感染拡大のため、痛省の自粛や宿舎内での自粛による精神的なストレスを緩和するために対策や対応をしっかりと行ってきた。	感染症対策を徹底して継続していくこと、舎生が生活しやすい環境を整えていきたい。	A		
舎3	3. 寄宿舎行事の充実を図る。	A	コロナウイルス感染症のため、歓迎会や食事会などのイベントが一切できなかったのが残念であった。大掃除は毎回生徒が一生涯に思い出に残るよう取り組んでくれた良かった。	コロナの状況によるが、可能であれば寄宿舎生活が充実するようなイベントを行いたい。	A		
産1	1. 専門学習の深化を図ることで資格取得の推進を図る。	A	7限目の有効な活用方法として資格取得の学習会を実施。資格取得者が前年度に比べ大幅に増加した。	次年度以降も継続的な実施を行い合格率の向上につながる取り組みをしていきたい。	A	・寮をいっそう充実させていって欲しい。	
産2	2. 課題研究を充実させることで、各コースにおける特色ある教育活動を実践する。	A	今年度はコロナウイルスの関係で思っていたような学習活動を行うことができなかった。また、発表会も生徒のみの参加となり一般に開放することができず残念であった。	学び方の考え方を検討するには貴重な1年となった。発表会については、感染対策を検討し、リモートでの開催なども考えていく必要がある。	A		
産3	3. 関係機関や地域との連携による教育活動を実践する。	A	これまでの取組は継続的に行ってきた。しかし、感染症の拡大や感染症対策が十分とは言えず生徒の関わりがなかった1年となった。	継続的に地域との連携は行ってきた。しかし、生徒の参加がない1年となり残念な思いが強い。2月にブドウ専用スマート農業用ハウスも完成し有効に活用しながら地域との連携強化を図りたい。	A		
1年1	1. 基本的な生活習慣の確立。	A	生活時間記録を活用して個々の生活習慣確立を支援できた。遅刻・欠席は少なく、教室等の整理整頓も概ねできている。	様々な場面で生徒一人一人に声をかけて、基本的な生活習慣の定着を指導する。	A	・地域に根ざした学校となり得るため地域の課題解決のため地域に入り深掘りして一員となつて欲しい。 ・地域を挙げて学校をよくしようと動いていることに学校も精一杯応じていると思う。 ・バス登校の生徒負担の軽減が求められる。 ・地域に密着した高校だが、教職員自身の地域に近づく活動がほしいと思う。	
1年2	2. 人権尊重の精神と態度の確立。	A	学校行事やホームルーム活動を通じてクラス内の連携を向上することができた。集団生活を通して、人権尊重を学び身につけている生徒が多い。	あらゆる活動を通して、人権尊重についてしっかり考え、行動するよう指導する。	A		
1年3	3. 自主的な学習態度の確立。	A	授業中は概ね真面目に取り組んでおり、基本的な学習習慣を確立しつつある。多くの生徒は課題の提出状況も良好である。	授業を大切に、予習・復習をしっかりとすることにより、日々の積み重ねを大事にするよう指導する。個別の支援を必要とする生徒への対応もより充実させる。	A		
1年4	4. キャリアの形成。	A	様々な職業人の話を聞くことで、キャリアについて考える機会を持つことができた。進路ガイダンス、職場体験、大学訪問等の例年の行事は、コロナ禍の中、オンラインで可能な限り開催した。	引き続き、実際に地域の人の話を聞いたり、職場体験や大学訪問や自分で調べたりすることにより、進路目標について主体的に考えるよう指導する。	A		
2年1	1. 基本的な生活習慣の定着。	A	1年次から挨拶の指導を根気強く行ってきた。本年度は明るく元気な挨拶を自発的にできるようになった。	挨拶は人間関係づくりの基本である。最終学年としてその意義について再確認し、主体的な取組を促す。	A	・地域に根ざした学校となり得るため地域の課題解決のため地域に入り深掘りして一員となつて欲しい。 ・地域を挙げて学校をよくしようと動いていることに学校も精一杯応じていると思う。 ・バス登校の生徒負担の軽減が求められる。 ・地域に密着した高校だが、教職員自身の地域に近づく活動がほしいと思う。	
2年2	2. 人権尊重の精神と態度の定着。	A	人権尊重の精神と態度については、多くの生徒が身につけることができるようになってきた。しかし、SNS上でのトラブルについては課題が残った。	常に相手の気持ちを考えた言動ができるように、機会ある毎に指導を繰り返して行動の変容を図ってきたい。	A		
2年3	3. 自主的な学習態度の定着。	A	次時の授業準備など、授業に向かう姿勢についてはよくなってきた。週末課題や提出物等の定着については課題が残った。	日々の授業の予習・復習への取組と家庭学習時間の充実を図り、それぞれの進路実現に向けての取組を強化していく。	A		
2年4	4. 進路目標の具体化。	A	担任によるきめ細かい面談により、進路目標を明確にできつつある。しかし、明確な目標を持っていない生徒もおり、具体化に向けての取組を更に強化していく必要がある。	進路実現に向けては、そのために学力をつける必要がある。まずは授業を大切に基本姿勢を身につけていきたい。	A		
3年1	1. 基本的な生活習慣の定着。	A	STEPや面談等を通して、基本的な生活習慣の定着を促してきた。遅刻・欠席・早退は少なく、基本的な生活習慣は概ね定着させることができた。	継続して3点固定を促し、良い生活習慣を身につけさせる。	A	・地域に根ざした学校となり得るため地域の課題解決のため地域に入り深掘りして一員となつて欲しい。 ・地域を挙げて学校をよくしようと動いていることに学校も精一杯応じていると思う。 ・バス登校の生徒負担の軽減が求められる。 ・地域に密着した高校だが、教職員自身の地域に近づく活動がほしいと思う。	
3年2	2. 人権尊重の精神と態度の定着。	A	面談等を通して生徒の状況を把握した。生徒は、HR活動や学校行事等を通して、互いに認め尊重することができた。	面談等を通して生徒の状況を把握し、情報を共有しながらよりよい人間関係が築けるように働きかける。	A		
3年3	3. 自主的な学習態度の定着。	A	HRや面接を通して、進路実現に向けてやるべきことを認識させ、多くの生徒が主体的に取り組んだ。	授業に真摯に取り組ませ、資格取得に向けて積極的に取り組ませる。	A		
3年4	4. 進路目標の実現。	A	授業・HR活動を通して意識を高めるとともに、3年間続けたふり返しシートや個別指導を通して、多くの生徒が進路目標達成に向けて努力した。	学力をしっかりとつけ、進路目標を明確にさせ、進路実現に向けて主体的に取り組ませる。	A		
魅力化1	1. 新学習指導要領に則した教育内容の充実を図るとともに、授業力の向上に取り組む。	A	教育課程検討委員会を開催し、普通科・産業技術科の各コースの内容を検討・確認し、新しい教育課程の編成を進めた。継続して、教育内容の検討を行うこと、研修の実施に取り組んでいきたい。	教育内容の検討を継続するとともに、授業力・伴走力向上のための研修を行う。	A	・地域に根ざした学校となり得るため地域の課題解決のため地域に入り深掘りして一員となつて欲しい。 ・地域を挙げて学校をよくしようと動いていることに学校も精一杯応じていると思う。 ・バス登校の生徒負担の軽減が求められる。 ・地域に密着した高校だが、教職員自身の地域に近づく活動がほしいと思う。	
魅力化2	2. 新将来ビジョンの策定、魅力化コンソーシアムの構築を行った地域との連携を強化し、学校の魅力化・特色化をさらに進める。	B	令和3年3月1日に、矢上高校と地域の未来をつくる会(コンソーシアム)の構築、矢上高校将来ビジョンが策定が完了した。今後、その運営と事業の実行を策定していきたい。	令和3年度は、コンソーシアム運営の初年度になるので、コンソーシアム運営マネージャーと連携して効果的な運用を検討し、実行する。また、その活動について周知する。	A		
魅力化3	3. 安定した入学確保をめざす。	A	2年続けて、ほぼ定員に近い入学を確保できた。より多くの中学生に志望してもらったための、更なる魅力づくりと情報の発信を行いたい。	学級減や教員の定数減を起さないためにも、引き続き定員の充足を目指す。そのなかで、志ある入学希望者を増やすため、学校の魅力化をさらに進める。	A		
学校運営1	1. 新しい学力観や入試制度に対応できる授業力の向上。	A	新しい学力観を意識した授業公開や授業後の研究会などを行い、ICT使用も積極的に行われ、意識は向上してきた。新カリキュラム作成にも時間をかけ取り組んできたが、まだまだまわっていない状況にある。新入試制度への対応は教科毎に取り組んでいないが、まだ、手探りの状況もあり、全体での取組になっていない。	新しい学力観を反映した新カリキュラムを完成し、授業公開や研究授業を充実させ、校内研修を強化する。また、校外の研修にも積極的に参加し、それを校内で共有できるようにし、授業アンケートの方法の修正活用を図る。	A	・地域に根ざした学校となり得るため地域の課題解決のため地域に入り深掘りして一員となつて欲しい。 ・地域を挙げて学校をよくしようと動いていることに学校も精一杯応じていると思う。 ・バス登校の生徒負担の軽減が求められる。 ・地域に密着した高校だが、教職員自身の地域に近づく活動がほしいと思う。	
学校運営2	2. 本校の魅力化・特色化の一層の推進。	A	産業技術科や普通科の課題研究の取り組みと発表が昨年度よりより精度を高め、地域とつながりながら成果を上げてきた。今年度末でコンソーシアムの組織が立ち上がり、今後5年間の指針となる「第2期矢上高校将来ビジョン」も作成された。準備段階の1年でもあったので動きが見えなかった。	コンソーシアムと連携しつつ「第2期矢上高校将来ビジョン」の活発な運用を図る。普通科・産業技術科の特色を生かした課題研究をより一層進め、各クラスに地域と協働した探究活動を推進する。	A		
学校運営3	3. 「自律・成長の場」「地域参画の場」となるような寄宿舎の運営。	B	コロナ禍の下に感染対策を徹底するということが今年度の課題であり、手探りの運営をしてきたが、本来行われてきた「地域参画の場」となる行事も中止になり、成果は上げられなかった。ただし、年々増加しつつある寄宿舎生のために通院等を支援する地域の方々で組織する「寮生支援部会」も始まり、有効に活用することができた。	教員会監、外部会監との連携、情報交換を密にし、寄宿舎の規律を守りつつ、生徒の自律を促し、互いに教え合い、自治する寄宿舎へ歩を進める。地域参画の場となる行事を企画、運営し、地域とのつながりを深める。	A		
学校運営4	4. 多忙・多忙感の解消につながる「働き方改革」の推進	C	「教職員の働き方改革推進」として新たに業務アシスタントが1名配置され、オフィスワークをはじめとしてさまざまな教職員の業務を代替してもらい、効果があった。ただし、コロナ禍の中、様々な新たな業務も増え、多忙感の解消には至らなかった。	業務アシスタントをはじめとする教職員をサポートする人材の一層の活性化を図る。ICTを活用した業務の合理化を進める。業務分担の適正化を進め、時間外勤務時間を平均化する。教職員の多忙感をストレス視点でとらえて、メンタルヘルスの研修や風通しのよい職場の環境作りを努める。	A		
事務室1	1. 連絡、相談を通じて全職員との情報交換を密にし、必要な情報の共有に努める。	A	随時、メールや職員朝礼を通じて情報を共有することができた。	今後も相談しやすい事務室であるように日々の情報交換を密にする。	A	・地域に根ざした学校となり得るため地域の課題解決のため地域に入り深掘りして一員となつて欲しい。 ・地域を挙げて学校をよくしようと動いていることに学校も精一杯応じていると思う。 ・バス登校の生徒負担の軽減が求められる。 ・地域に密着した高校だが、教職員自身の地域に近づく活動がほしいと思う。	
事務室2	2. 経費の節減を図り、効果的な予算執行により教育環境の整備に努める。	A	コロナウイルス感染症対策に係る予算の配分があったことも、優先順位を考えながら整備に努めた。	優先順位を考えながら必要なものについては時機を逸さないよう調整し、整備する。	A		
事務室3	3. 効率的な運営に向けた業務の点検に努める。	A	働き方改革の面からも事務が効率よく回るよう私費会計の省力化や事務室内の環境改善を行った。	引き続き、業務が効率よくかつ着実に進められるよう点検に努める。	A		